

2018年1月15日(月) ハコラク2月号 掲載

ドクターコラム『キズの話』

形成外科 木村 中 診療部長

小さなケガで、例えばちょっとだけ擦りむいたり、包丁やナイフで切っても浅くて出血もそれほどではない時には、自分で絆創膏を貼つて治してしまいますね。しかし、切れた傷が深くて出血も多い時、擦りむいたキズが広範囲で目や口に掛かっていてどうしたら良いかわからない時、そんな時は病院へ行かなければなりません。日本創傷外科学会というキズのことを専門に研究し話し合う学会があつて、その学会の構成員はほとんどが形成外科医です。形成外科はケガを扱う診療科なのです。キズを負つたら消毒をしなければなりません。

ば感染してしまうと思つていませんか？ ところが、急性創傷ガイドライン（ガイドラインとは指針を示すものです）によると、キズに消毒は必要ないとされています。また、挫滅創・汚染創では水道水での洗浄が有効であるとされています。また、キズには軟膏を塗るだけではなく、創傷被覆材というのも用いられます。創傷被覆材にはさまざまなものがあり、そのキズの状態や浸出液の多さなどによって使い分けられます。切り傷ではテープによって固定され治癒しづらくなります。創傷被

覆材の方がきれいに治ることも多いのです。

やけどをしてしまった時、アロエやキヤベツなどの植物を創面にあててくる方もいます。一時ネットの世界では食品用のラップで覆うと良いともてはやされました。しかし、ラップでの治療で熱傷創に感染を起こし、敗血症にまでなって命の危険にさらされたケースが報告され、日本熱傷学会ではラップの使用はしないように注意喚起しています。もちろん植物も感染の危険性がありますからお止めをお勧めします。専門の病院への受診をお勧めします。キズの治療も日々進歩しているのですね。

Doctor Column 1

形成外科

キズの話

函館中央病院

形成外科

ちゅう

木村 中

診療部長



[略歴]

昭和59年、北海道大学卒業後、道内の北大形成外科の関連施設で研修し、平成2年、函館中央病院勤務。日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本手外科学会専門医、日本臨床皮膚外科学会専門医、日本褥瘡学会認定師、日本フットケア学会指導士。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代)
<http://www.chubyou.com/>

■診療科目／内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科
外科、整形外科、形成外科、心臓血管外科、皮膚科
産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔科など全24科目

■受付時間／8:30～11:30、13:30～16:00

※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。

■休診日／日曜・祝日・年末年始・開院記念日(6月第1水曜)